

健 対 協

令和4年度第2回循環器病対策推進に関する小委員会(心疾患関連)

■ 日 時 令和5年1月12日(木) 午後3時～午後4時15分

■ 開催方法 オンライン開催

■ 出席者 15人

山本委員長、加藤克・加藤達・吉田・水田・角田・畑野各委員

健康対策協議会 渡辺会長、岡田理事

県健康政策課：萬井課長、坂本課長補佐、井上係長

健康対策協議会事務局：岩垣次長、梅村主任、廣瀬主事

挨拶(要旨)

〈渡辺会長〉

新型コロナウイルス感染症の収束が見通せない中において、循環器病対策として鳥取県は比較的早く鳥取県循環器病対策推進計画を策定し、心疾患、脳血管疾患それぞれについて小委員会に対策、活動を行っているところである。循環器病は様々な疾患に繋がっていく可能性があり、地域における重要な課題である。小委員会の活動を通してより良い対策の推進に繋がっていくよう願っている。

〈山本委員長〉

新型コロナウイルス感染症と冬場の循環器疾患の急患の対応で、多くの医療機関は大変苦慮されていると思う。このような中で、循環器に対する対策を国で法的に進めていただけるということに

なり、県民の健康寿命が少しでも延びるように活動していきたいと思う。

各協議事項の概要

萬井県健康政策課課長、井上係長

1. 令和4年度事業の実施状況報告について

循環器病に関する講演会～正しく学んで、しっかり予防！～(一般県民向けの講演会)を、令和4年10月29日(土)午後1時30分から午後4時に「Zoom」によりオンライン開催した。視聴者数は当日視聴が21名、後日動画視聴が28名であった。参加者の所属別では、病院関係者が16名と最多であった。アンケート結果によると満足という意見が多く、次回に向けて、実際に病気を経験された方の経験談を求める要望があった。

循環器病に関する多職種連携従事者研修会を、令和4年11月20日(日)午後1時30分から午後5時に「Zoom」によりオンライン開催した。視聴

者数は当日視聴が28名、後日動画視聴が61名であった。参加者の所属別では、病院/診療所が72名と最多であった。アンケートの結果は、勉強になったという意見が多い一方、専門的で理解しにくい部分があったという意見もあった。また、次回に向けて、心不全のリハビリテーションと栄養支援についての内容の要望があった。

令和5年度は、令和5年11月18日（土）に開催される「日本循環器学会中国地方会」の市民向け講座との合同開催を予定している。講演内容と講師等は、当番地区である東部の吉田委員、加藤委員を中心に進めることとなった。

これらに関して、今回は周知期間が短かく参加者を多く募れなかった。来年度はより早く周知し、市町村等を通して更なる参加を促していきたい。また、質疑応答も検討し、受講者の研修会受講前後での変化についても伺っていきたい。

2. 令和5年度の事業案(予算要求状況)について

令和5年度は、令和4年度の継続事業を検討している。研修会開催も健康対策協議会へ委託することとし、患者代表も小委員会委員に加わり、委員人数が増えたこともあり予算は増額となる予定である。

予防啓発資料は、令和4年度に国の脳卒中・心臓病等総合支援センターモデル事業に選定された、全国の10自治体が作成中である。それが令和5年度中にできれば、鳥取県でも啓発に活用できるかもしれないという話があった。

3. 鳥取県循環器病対策推進計画の改定について

令和5年度は、国の循環器病対策推進基本計画の見直しの時期となっている。それに合わせて鳥取県健康づくり文化創造プラン（第四次）等、関連する他計画と同様に鳥取県循環器病対策推進計画も令和5年度中に見直しを行っていく。今後、令和5年5月と12月に脳、心臓の各小委員会で見意見を頂きながら計画の改定を進めていく。その後令和6年1月に県民へ意見を求め、2・3月頃に

は最終案を作成し、令和6年4月に新プランを策定する予定である。

現段階の「心筋梗塞等の心血管疾患に係る指標(案)」「第7次医療計画指標（心筋梗塞などの心血管疾患)」「心疾患におけるロジックモデル（鳥取県循環器病対策推進計画)」「循環器対策推進基本計画（案)」が示され、現時点について委員より意見を頂いた。

- ・急性心筋梗塞患者に対するPCI実施率の項目について、ロジックモデルで件数は把握しているため実施率を算出することは可能。しかし分母である急性心筋梗塞の診断根拠が、医療機関によってばらつきがあるため、どこまで正確にするのかという問題もある。
- ・心臓血管外科手術が実施可能な医療機関数の項目について、数が多ければ良いわけではない。そのため学会としては、医療機関数を絞る方向になっている。その方が患者のアウトカムにとっても良い。
- ・両立支援コーディネーターの基礎研修の受講人数の項目に、循環器病に両立支援の視点も入れて欲しい。

4. 令和5年度「脳卒中・心臓病等総合支援センターモデル事業」の公募について

「脳卒中・心臓病等総合支援センターモデル事業」として、モデル的に令和4年度に全国10自治体12病院において先行的に実施し検証を行っている。令和5年度も、予算額を上げて選定数を増やし公募がある予定である。令和4年度に引き続き鳥取大学医学部附属病院が応募予定である。

5. 令和4年度心疾患遠隔リハビリテーションモデル事業について

鳥取大学医学部附属病院を拠点とし、日南病院とリモートで繋ぎ、心疾患患者のリハビリテーションが行える指導者の育成および患者が希望する場所（かかりつけ医院、公共施設、老人関連施設等）での定期的なりハビリテーションを行うこ

とができるよう、遠隔リハビリテーションの体制の整備に資する取組を推進する。

このために各々のリハビリテーション室を、「Zoom」を使って結び、日南病院の患者に集団で

エルゴメーターによるリハビリを行っていただき、日南病院PTが監視のもと、鳥取大学医学部附属病院から指導すること等を想定している。